

エキスパートセミナー



スプリント療法のポイント 抑えておくべき知識と技術

飯塚 照史(いいつか てるふみ)¹、谷岡 篤²、藤井 大起²、児島 範明²、宮本 定治²、稻垣 慶之³ (1. 奈良学園大学、2. 関西電力病院リハビリテーション科、
3. 名古屋掖済会病院手外科マイクロサージャリーセンター)

略歴

1998.3 広島大学医学部保健学科卒業
2000.3 広島大学大学院医学系研究科修士課程修了
2000.4 広島土谷総合病院リハビリテーション科
2002.4 名古屋掖済会病院リハビリテーション科
2007.3 広島大学大学院保健学研究科博士課程修了、博士（保健学）
2007.4 関西学研医療福祉学院作業療法科専任教員
名古屋掖済会病院リハビリテーション科非常勤
関西電力病院非常勤
2010.4 星城大学リハビリテーション学部講師
2019.4 奈良学園大学保健医療学部リハビリテーション学科教授

資格

認定ハンドセラピスト、専門作業療法士（手外科）

所属学会

日本作業療法士協会
日本手外科学会、機能評価委員会
日本ハンドセラピィ学会理事、認定資格審査委員会事務局
NPO 法人ハンドフロンティア理事
日本作業療法教育研究会
日本ペインリハビリテーション学会
日本物理療法学会代議員

スプリント療法は的確な適応判断により対象者の機能改善に非常に有効な手段なる。本セミナーでは作製において抑えておくべき知識と技術、実践を豊富な動画を用いて紹介し、明日からの臨床でスプリント療法が選択肢として入ることを目的とする。

【抑えておくべき知識】

最もオーソドックスなタイプ分類として Static と Dynamic がある。それぞれの特徴を踏まえて、適応（固定・支持・矯正・保護・代用）を検討する。作製にあたっては、効率の良い環境設定が重要となる。素材には、多用されるシートタイプの他に、包帯のように巻いて作製するもの、格段の硬さを有するものなどがある。所属する施設における対象者の状況に合わせて準備することが肝要である。

【抑えておくべき技術】

包帯を巻いている際の作製時にはビニールをかぶせた状態で作製する。スプリント材のエッジの処理やベルクロの装着、接着方法等、細かいが有用なテクニックがある。これらを抑えることで、機能的でかつ見栄えの良いスプリントとなる。本セミナーでは代表的な static スプリントについてダイジェストにて紹介する。

【実践例】

ハンドセラピィ領域、中枢疾患領域の実践例を紹介する。いずれも目的を明確にしたうえでの適応により有効であった一例である。加えて、作製技術を自助具に応用した例も紹介する。

【まとめ】

スプリント療法で求められるのは機能である。これを達成するためには、最も重要なことは、適応を判断する評価であることを銘記して、実践応用を行っていただきたい。また、参考となる動画や研修会も存在するので、本セミナーを契機として参考あるいは参加を検討いただければ幸いである。